



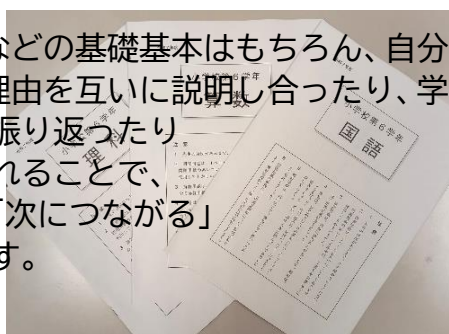
6年 全国学力・学習状況調査

4月17日（木）、6年生（と中学3年生）を対象に全国学力・学習状況調査が行われました。平成19年（2007年）から続く調査で、午前中、6年生は緊張感の中、「国語」「算数」「理科（およそ3年ごと）」に集中して取り組んでいました（アンケート（Web 回答）は翌日に実施）。

調査問題の傾向としては、例えば国語なら「習った漢字を正しく書く」だけでなく、「中心となる文を見つけて要約し」たり、「話し手の考えと比べながら自分の考えをまとめ」たりする問題です。

算数なら「図形の意味や性質を答える」だけでなく、「面積の大小を見つけその理由を答え」たり、「日常生活の場面を想定し、求めた答えを条件づけ」したりする問題です。コミュニケーションで大切な、自分の意見を整理して分かりやすく相手に伝えられるスキルを問われる問題が特徴です。

本校でも、漢字や計算などの基礎基本はもちろん、自分の考えを書いたり、その理由を互いに説明し合ったり、学んだことをその日の内に振り返ったり、する活動を授業で取り入れることで、相手を意識させながら、「次につながる」学力の育成に努めています。



5・6年 すくすくウォッチ

同日、5・6年生を対象にすくすくウォッチが行われました。令和3年度から、府の公立小学校5・6年生を対象に、読解力や情報活用能力の向上を目的にした独自の学力調査です。学校や日常生活についてのアンケートも行い、通常のテストでは測れない子どもたちの個性を発見して伸ばすのがねらいです。

5年生は、①国②算③理④わくわく問題（教科横断型問題）⑤児童アンケート、**6年生は、全国学力等調査の後、わくわく問題とアンケートに取り組みました。**

『おつかれさまでした！』

「個人バーコード」をもとに、小5が中3になるまでのテスト結果から「その子個人」の学力の変化を把握します。また、6年生時は、全国学力等調査の「個人番号」をもとに、すくすくウォッチと関連付けます。

著しい社会の変化の中で、小中学校に求められるのは、流行に流されるのではなく、むしろ、学びの基盤を固めることであると考えられます。

今年度本校では、基礎基本の定着の重要性を再確認し、子どもたちが既習事項を活用し、できる喜びを感じる授業づくりに取り組んでいます。



児童のようす

1年生 小学校はじめての給食の時間

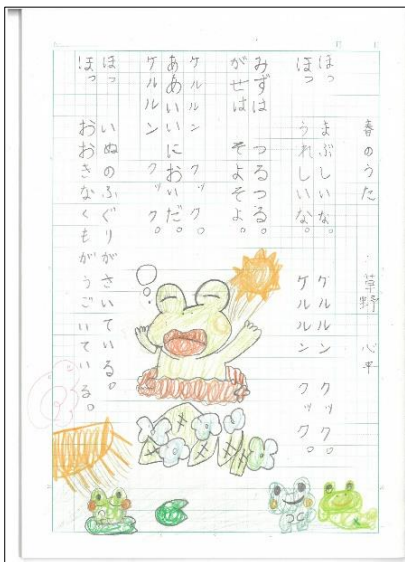
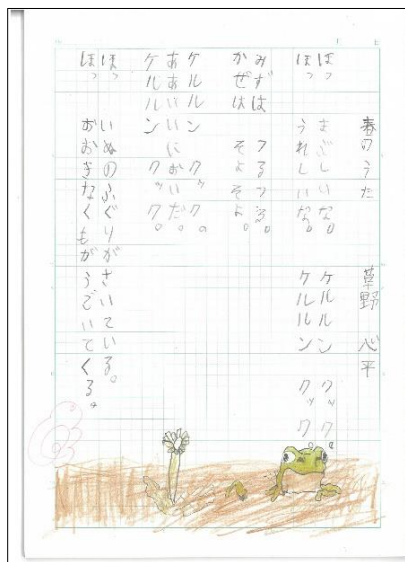




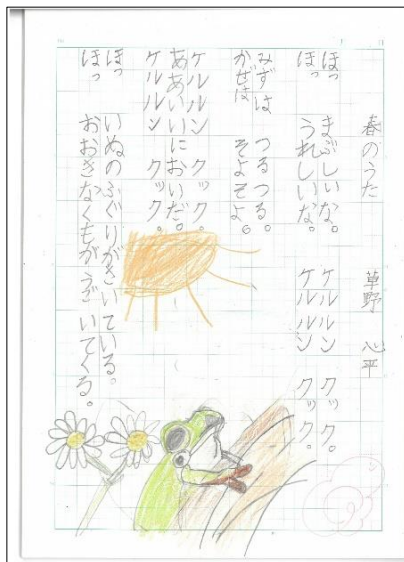
職員 4/15 小中合同 救命救急講習訓練(放課後)



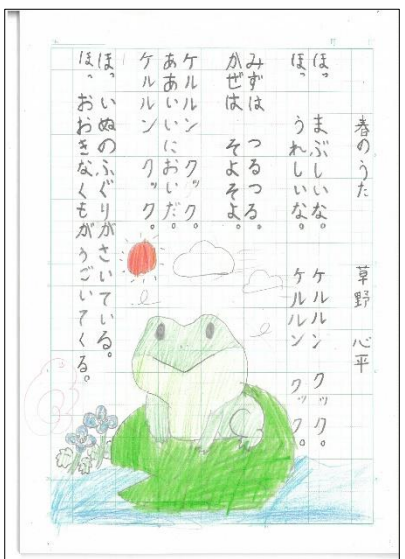
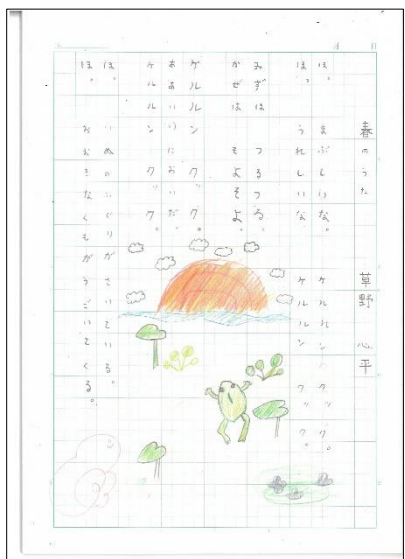
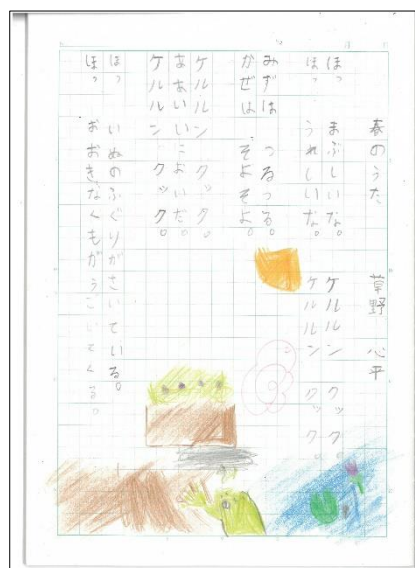
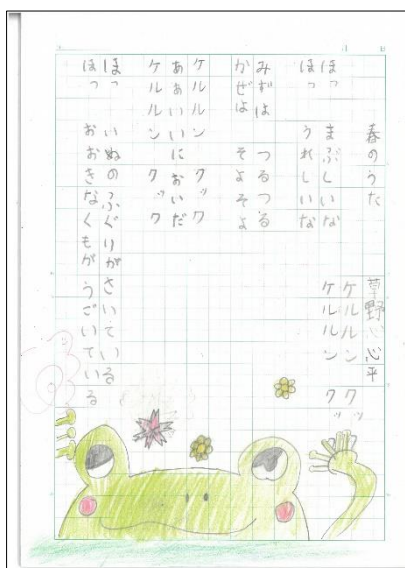
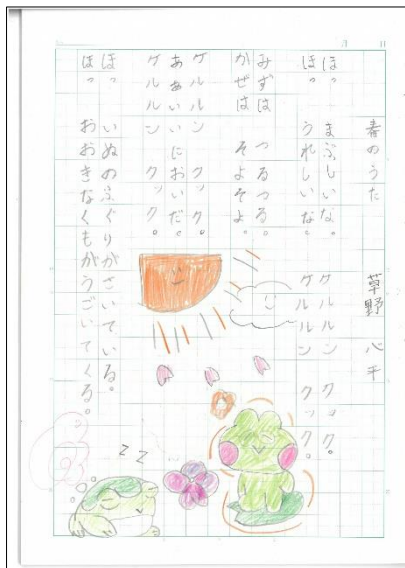
学習のようす(予習・復習ノート、教科ノートなど)



4年2組



4年2組



4年4組

